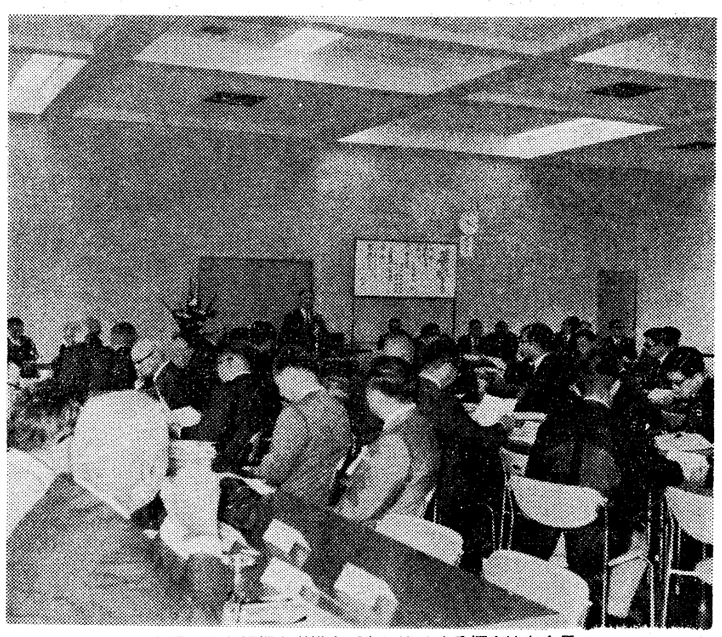
関大
発行人　関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35
発行人　神屋敷民蔵
電話大阪(388)1121代表
振替口座大阪55594番

本年度の代表者会議開く

支部運営 問題点を討議
全国地域支部代表者総会

組織活動の促進は、本会事業の重要な活動方針であり、本会には現在全国に九十八の地域支部・百余の職域・同期・各種団体等の組織があり、毎年本部との組織交流を図っている。本年度の代表者会議は二つに分けて開かれ、先ず全国地域支部代表者総会は、九月十八日午後一時から母校千里山関西大学会館に遠く東京はじめ四十五支部七十八名が参集、母校学園見学のあと、支部運営の問題点をテーマに、各支部代表者によって、母校愛に溢れた熱心な討議が重ねられた。

一方職域・同期・各種団体代表者懇談会は、続く九月二十五日午後一時から、大阪証券会館に五十七団体八十六名が集まり、「円切り上げとその影響」と題する母校上田昭三教授の講演を聞いたあと意義ある会合の持ち方について、組織相互の問題点を話し合った。


全国地域支部代表者総会であいさつする樫本校友会長

全国地域支部代表者総会は、九月十八日午後一時から、母校千里山関西大学会館で開かれた。折柄の雨模様で出足が心配されたが、定刻前には、遠く東京・備後・岡山・鳥取ほか足元をいとわず次々と会場に姿を見せた。

総会は千葉組織副部長の司会で開会、学歌斉唱、来賓役員紹介に続いて、先ず樫本会長から「現在校友会には、全国に百に及ぶ地域支部があり、日頃から母校や本部と連絡を密にとっている。しかし地域支部相互の交流はなく、本日の会合はそうした場にしていただく意味と、他方代表者のみなさんが、支部の拡大強化について日頃かかえている問題について討議を重ねていただく意味がある。これは地域支部だけでなく本部にとって非常に重要なことなので、その意義が達成できるようご協力を願いたい」と挨拶。

校友の関心事である母校学園の近況を久井理事長から、冒頭、平素母校の発展向上に惜しみない協力をしている校友に対し謝意を表された後、昭和二十八年来母校のたどった発展経過を計数的に紹介。大学の使命である教育研究の場にふさわしい蔵書数六八万余冊、教授陣容四七一名に至っている旨を報告。今後急迫した財政状況の下で、派生するであろう幾多の誤解の克服に、一層の理解を賜わりたいと結んだ。

続いて広瀬学長から、最近の学生運動の動きを説明、また大学改革については、去る四月改革調査委を発足、入試・一般教育・学生の厚生補導、二部教育と無眉の問題を諮問し、八月末第二次答申を得たので意見調整の上、答申の趣旨を体して改良すべきものがあれば、改良して行きたい旨現況を報告。

このあと支部代表者の自己紹介があって、総会テーマである「支部運営の問題点」について、金本組織部長・北野組織部員の進行で懇談に入った。

まず熱心に支部運営発展に努力されている、白羽愛知・木下京都・安井伊丹・本多守口・田中大阪南の五支部長から、支部の現状を紹介。

その要旨を集約すると、支部運営上共通の問題は①会員の把握、②支部総会のあり方、③基金の問題、④その他の企画の四点に分かれ、

▽会員の把握
①支部名簿を綿密に作成している
②会員との緊密な文書連絡につとめている。③会費徴収の習慣をつけている。④校区ごとに幹事をおいて、足でかせぐ連絡方法をとっている。これは家族との親密感を増すことになる。⑤若返りをはかるため在学生を準会員として、交流につとめた。⑥年次別世話人会を結成して、横の連絡拡張につとめたい。

▽支部総会のあり方
①総会については、回数は年一～二回、日時は土曜日の午後六時、会費は千五百円程度かよい。②総会にあわせて、在住校友の集転、当選祝賀会、母校教授の講演会、アトラクション（福引・寄席）をとり入れている。③支部にある職域会と協力関係を保っている。

▽基金の問題
①年額五百円の会費を、二年分振替郵便で払込みとしている。（その結果、二八〇名から二八万円の払込みを得た）②当日会費のほかは、役員・有志の寄付によっている。③在任校友が多く案内状の発送さえ、制限している。

▽その他の企画
①総会では、年令差があるので年輩者の懇親会をもっている。②市政相談（校友市議による）・職域・同期・結婚相談を設けている。③会員の聚市には特に留意している。④ゴルフ会・家族連れ母校見学会を持ちたい。

以上五支部代表の実態報告を中心に懇談につづり、地域を越えて支部代表から、母校・本部に対しまた支部事情を次々と意見発表があり、①多年活動しているところは、もっと表彰してはどうか。②支部の広域とところは細分化してはどうか、③支部運営費を本部予算で補助願えないか、④本部に整備できる事務機を支部に活用できるよう方途を講じて欲しい、⑤支部総会に講師のあっ旋を願いたいといった希望意見があり、また支部独自の問題として、⑥若年者と高年者との接合点となる妙薬は？との提言に、総会では必ず自己紹介を取り入れることや、若い幹事を選用したらよい等実践による事例を紹介。

最後に、これら希望意見に対し金本組織部長、樫本会長が執行部方針を説明。

①本部に整備されているカード検索機は、目下データーカード作成中であり、年度内には作動の予定でその際は地域、職域別名簿などの要望に応えられる予定である。②本部の財政援助は、理想としては念願しているが、現在のところ基金に制約があり希望にそい得ない現状にある。③文部表彰は、昨年度はじめたものであり、本年は地域支部のほかに職域・個人についても考慮している。これは種々の事情を配慮し慎重に運びたい。

以上のように予定時間をはるかに越える熱心な討議に終始し、近年になく有意義・盛会裡に会を閉じた。

このあと出席者一同、懇親会にうつり、和やかに交歓を深めた。

57団体86名が参加
職域・同期・各種団体 代表者懇談会

職域・同期・各種団体代表者懇談会は、九月二十五日午後一時から大阪北浜大阪証券会館で開催。

会に先立ち、母校経済学部上田昭三教授を招聘して「円切り上げとその影響」と題する講演を拝聴した。

続く懇談会は山下組織部員の司会で開会、一同声高らかに学歌を斉唱、来賓役員紹介があり、樫本会長から「本日は、校友会年一回開催の職域同期各種団体の懇談会である。校友会の活動は機関紙〝関大〟で職域・同期・各種団体代表者総会であいさつする樫本校友会長

ご認識の通りで、本会の発展は文部・職域・同期・その他の各種団体の拡充発展にまつところが大きい。それにつけて出席各代表者には何かとご尽力を賜り感謝にたえないところである。本日の会は如何にすればより一層組織の発展ができるか、懇談願うことも有意義であると考えたからである。また母校の近況をつぶさにご懇談願いたい」と会の趣旨を述べたあと校友総会、校友名簿刊行等の本部事業に関する協力要請を兼ねた近況を報告。

また久井理事長から前述の昭和二十八年来、教学の上からみた母校の近況を紹介、母校財政も六年来新しい財源を持ち得ず、収支の見合いは危殆に頻している旨を強調された。

続いて広瀬学長から、最近の学生運動の動き、大学改革の進捗状況等を前述の通り現況を報告。

質疑に入り、法人の昭和四十一年度増加している負債の解消に何か事業をとり入れては如何等の提言があった。次に職域支部・職域同期各種団体の順に、役員・幹事の改選があった。

10月31日 校友総会ご案内

昭和四十六年度校友総会は左記により例年なじみの大阪網島の名苑〝太閤園〟で開催いたすことになりました。

総会は校友同窓年一回の懇親の楽しい集りでありますので、ご家族御同伴お繰り合せご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

とき　十月三十一日（日）
午前十一時開場・十一時半開会

ところ　大阪市都島区網島町九一〇　太閤園

会費　一、五〇〇円（ご家族同伴者も一名につき一、五〇〇円）

関西大学校友会長　樫本信雄

代表者会議出席支部団体
……支部団体名（出席者名）……

全国地域支部

代表者総会

▽他府県　東京（及川昭二）偏後（八百村稔）　岡山（神崎伝次郎）　鳥取（奥沢喬、橋本喜一郎）　三重（三宅克也、増田博）　愛知（白羽弥三、森実）　姫路（滝利賀定盛、西村計重）　京都（木下忠夫、西田秀吉等）　神戸（内海明、城谷延男）　芦屋（田辺田治郎、松田秀彦）　尼崎（松島浩）　伊丹（安井章吾）　川西（高橋道郎）　宝塚（渡辺敏泰、大谷寿信）

▽大阪府下　池田（細井茂雄）　和泉（西口喜一郎、吉田利秀）　茨木（上田治雄）　柏原（柏元孝治）　河内長野（堂浦則雄）　堺（井上竹蔵、大丸敏雄）　吹田（佐々木砂夫、坂東勇治）　高石（高田芳郎）　大東（沢井佐代美）　高槻（脇野徳三郎）　豊中（今井康兼）　東大阪（宮越功）　箕面（永田広治）　枚方（守口清一）　八尾（水野富蔵、鍔谷武夫）

▽大阪市内　旭（吉田泰高）　阿倍野（小島龍太郎）　大淀（井上教）　此花（北村実）　住吉（島津徳三、多賀谷宏）　浪速（藤岡信博）　西（酒田誠一、山本守昭）　西成（吉川喜三、井口守和）　西淀川（田崎裕司、八木良部男）　東淀川（三宅良司）　東成（横尾卯一、進藤輝夫）　南（田中藤作）　都島（山野藤五郎、中西昭郷）

職域同期各種団体代表者懇談会

▽職域支部　大阪郵政関大会（遠藤茂太、和田啓一）　近畿特定局長関大会（江指幸四郎、真鍋繁雄）　大阪食糧事務所関大会（西田勇治）　大阪営林局関大会（福島守正、新江治）　兵庫県庁秀麗会（斎藤国臣、箱根三郎）　神戸市役所関大倶楽部（以登田勉）　柏原市役所関大会（山本一郎、山田正）　寝屋川市役所千里会（薮田勉、興村豪洋）　守口市役所純正会（上中賢三、藤田昭）　高槻市役所産友会（大上智敏）　西宮市役所秀麗会（吉田定男）　毎日新聞社関大会（水谷守孝）　朝日生命北浜会（広田鷲信）　三洋電機関大会（米田禎男）　日立造船関大会（松川禎）　日立製作所千里会（緒方弘）　自動車関大会（大橋博）　大阪自動車関大会（池尾泰治）　大阪ガイハツ楽秀会（倉谷精一、入江正人）　大阪市ツダ千陵会（森島信男）　大阪市中学校教員尚志会（青木奈良一、稲田秀男）　関大法曹会（安富敬作、棚野誠幸）　大阪司法書士関会（大上智敏）　日本生命北浜会（吉田定男）　朝日生命千里山

北から・南から　各地支部だより

激動する通貨問題

木村滋教授が講演

関西大学
経済人クラブ

関西大学経済人クラブ第三十一回例会は、九月二十一日午後五時半から新大阪ホテルで四十二名出席のもとに開催された。

会は戸根泰雄氏の司会のもとに開会され、今回はニクソンの新経済政策の発表によって、国際経済は通貨と貿易の問題をめぐり不安と混乱に陥り、わが国も変動為替制に移行し、模索と苦悩の胎動をし、日本貿易経済委員会からひひに十カ国蔵相会議を通じ、一連の国際会議では平価の多角調整もなお流動的である。一方、わが国の一部から情勢の進展したいで、日本が主導権をとり、通貨危機による不安を一掃すべき決断を急ぐ声も出ている。そういう折柄、とくに一激動する国際通貨体制と日本経済」をテーマに取り上げ、国際金融論を導攻され、このほど海外研究から帰朝の関学部木村滋教授を招き講演を聞いた。

木村教授の講演要旨は次のとおりである。

最近の国際通貨情勢の背景として先進諸国のスタグフレション、特に米国は国際収支、失業率、鉱工業生産指数、消費者物価指数、金外貨準備からみてきわめて顕著である。八月十五日、ニクソンが新経済政策を発表し、金とドルの兌換一時停止、輸入課徴金の実施は、わが国をはじめ西欧諸国に一大ショックを与えた。為替相場制も五月の西独マルク投機後、引続いて主要国のほとんどが変動為替制度に移っている。

為替相場制度として「固定為替相場制」―IMF体制―の問題点として①流動性ジレンマ、②ストップ・アンド・ゴー政策、③大規模かつ損のない投機、④金為替本位制上の困難があげられる。「クローリング・ペック」、「ワイダー・バンド」にもそれぞれの問題を持っている。「変動相場制」には①商取引の採算が立たない、②国内労働資本のたえざる移動の不経済、③均衡破壊的投機、④介入の必要、⑤三〇年代の経験などが問題点である。現行のIMF体制は米ドルを基軸とする金為替本位制であるが、一九六八年金、ドルを補う第三の準備としてのSDRが成立した。

このたびのニクソン声明によって、戦後四半世紀を支配してきたIMF体制は今後どのような運命を辿るであろうか。しかし人間の金への執着魅力は古今東西を通じて断ちがたいものがあり工業用利用の増大とともに、準備通貨としての金の廃貨は考えられない。ニクソン声明によって、金為替本位制は一時停止されたとはいえ、IMF体制自体が崩壊したわけではない。妥当な方策は①円の切り上げを含む平価の多角調整、②ワイダー・バンド、③金価格の引上げ（ドルの切り下げ）、④投機的短期資金移動の規制、⑤米国自身の国際収支節度、⑥課徴金の撤廃であろう。

円切り上げの一般的影響は産業界に及ぼす不況である。わが国は対米輸出依存（三〇・四％、GNPに対する輸出の依存一一％）が高く、ほとんどがドル建てであるので影響はまずである。

円切り上げに対する対策として政府は①大幅な切り上げをさけ、②通貨多国間調整の場でドル切り下げ、課徴金撤廃を要求し、③景気対策として財政投資、④中小企業の救済減税、⑤円対策八項目を再検討すべきであろう。更に⑥短期資金移動の規制措置も為替管理の一環として存続すべきであろう。

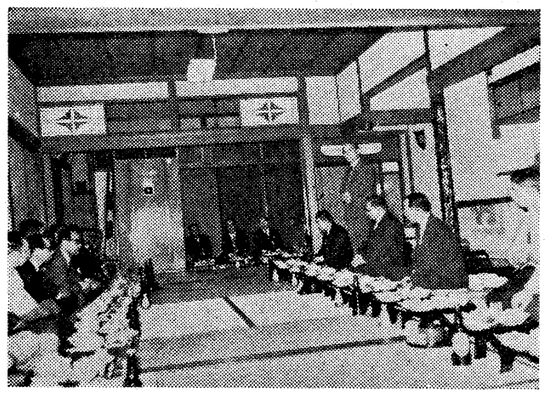
企業は①自主レートによる契約②円建契約、③契約時点の相場を適用するエクスチェンジ、クローズの挿入、④リーズ・アンド・ラグズ、⑤値上げ、⑥現金取引、⑦為替予約、⑧外貨建の輸出は同輸入と見合わす、⑨為替変動準備金等の対策とともに企業内部の体質改善技術革新をはかり、より強い国際競争力をつけるべきであろう。

以上の如く、木村教授の高い学識からの見解を傾聴した。引続き岡野衛士会長からのあいさつがあった。あと二同食事をともにして加古栄次郎氏（アートライト工業）から円切り上げ幅とその時期、後谷良夫氏（一吉証券）の証券市場への反映と展望、八木弦三氏（八木通商）から貿易取引の実体面とその対策、更にニクソン声明当時たまたまニューヨーク滞在中であった小泉博氏（西大和開発）からウォール街の現況など生々しい発言で賑わった。

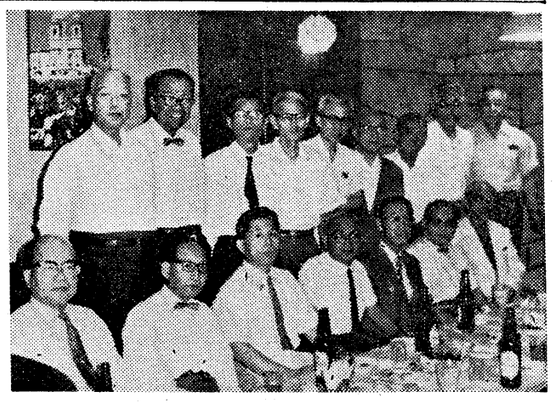
なお広瀬捨三学長から最近の学生運動のセクト争いの激しさと学園正常化への努力と期待について述べられた。

最後に出席者一同激動する国際経済の中にあって、日本企業のパイタリティーを再確認し、今こそ経済人としての真価を問われる時であるのでは、おたがいに今後の健闘を誓い合い、きわめて有意義、盛会裡に会を閉じた。

関西大学経済人クラブ例会で当面の〝通貨問題〟を聞く



十七会本年度総会であいさつする樫本校友会長

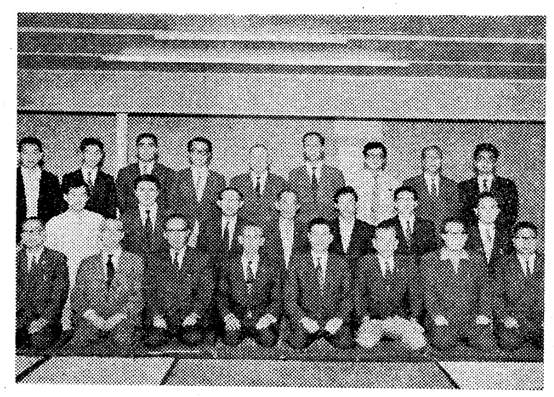


祥久会のつどいに参加した人たち

祥久会の集い

昭和九年旧制大学部卒業生で構成している祥久会は、春秋二季ただ何となく会ってお互いの健康な姿を見て喜びあう素朴な会である。

八月七日午後六時より北区梅ヶ枝町グリル「しおん」を借切って開会した。酷暑の中であったが皆元気である。開会にさきだって



新役員を囲んで開かれた西成支部懇親会

会長に加茂三郎氏

関大十七回総会ひらく

関西大学十七会本年度総会は九月二十日午後六時から大阪三十三〝大市〟に三十余名参加して開かれた。

竈田幹事の司会で、まず加茂会長代行から会務を報告、ことに来年は卒業三十周年を迎える年に当たるので、それにふさわしい総会を催したい旨報告、次に空席となっていた会長に加茂三郎氏（公認会計士）を会員一致で選任（任期二年）。

このあと母校広瀬学長から学生問題を中心に学園の近況を、また樫本校友会長から来たる十月の校友総会への参加をはじめ本部の近況を報告。このあと懇親会にうつり、きれいどころの酌に盃を交し、興たけなわになるや、謡あり道遥節あり時を忘れて歓談し散会したのは九時すぎであった。なお校友総会へも約二十名の参加申し出があった。

当日の出席者は次の通り。

余島弘一　平賀満　嶋田作二郎　南静　島崎金次　竈田武　山崎通夫　岸本聡　中沢俊雄　中島靖夫　稲垣一男　藤田貢正　桓内恒夫　西村末治　伊藤六祐　東雅澄　三品薫　中村重雄　安藤義夫　大松良行　西川澄　岡田信治　加藤道宣　小寺辰雄　二見豊一　佐々木六三郎　木下正一　倉貫重治　鶴田栄　吉岡嘉裕　加茂三郎

学歌で母校追憶

高知支部総会

校友会高知支部は九月十八日午後四時から高知市片町、高知相互銀行片町支店において昭和四十六年度総会を開催した。会は自己紹介で始まり、学歌を合唱、つづいて岡内支部長より母校の近況報告をかねてあいさつがあった。

宴に移ると、プリントされた追遥歌、学生歌を片手に懸命に相和す老いの目も思いは遠く母校へひた走る。南国土佐もようやく秋色濃く、いつもは静かな鏡川に面した会場も興大一色の感があり、盛会のうちに散会、時に午後八時だった。出席者は二七名だった。

名簿の整備などを審議

河内長野支部

関西大学校友会河内長野支部では八月二十二日午後六時から、三日市町「油屋」錦渓温泉で総会を開催した。会は堂浦支部長のあいさつで始まり、収支決算および母校近況についての報告のあと、審議にはいった。

当支部は本年三月末で一九〇名の支部員が確認されているので、相互の連絡を密にするため名簿整備の件、下半期会費徴収方法対策、総会、例会出席者増員対策、総会、例会開催日、場所、内容等の検討などが審議された。終了後、ビールパーティで親睦を深めた。

弁護士開業五〇周年の大月伸氏

人それぞれ

大月伸先生は明治二九年岡山県上房郡上竹荘村（現在賀陽町納地）の山村に大月繁八の五男として呱々の声を挙げられ、長じて志を立てて郷関を出て上阪し苦学して関西大学を大正六年卒業され、同九年弁護士試験に合格直ちに大阪弁護士会に登録されて現在に及んでおられる。

その間昭和一一年に大阪弁護士会副会長、同二九年同会長、同三九年日本弁護士連合会長に各就任せられ、同四二年勲二等瑞宝章を授与され、同四六年日本弁護士連合より弁護士在職五〇年の表彰を受けられた。また昭和三一年より同三六年までの間、関西大学校友会長に就任せられ母校の発展に多大の寄与をせられたことは皆様の御承知の通りである。

先生は生来の性格と青年時代の自己の苦労から後進の指導と誘掖を非常な熱意を以て実践され、その事務所では図師親徳・小野良一の両君を始めとしその後司法修習の第一期生より第二〇期生までの諸君が陸続として雛を接して実務を習得せられ、常に論争と談笑が渦巻いて正にけんけんの豪傑な俊髪の園の観を呈していた。これらの俊英は既に巣立たれ既に朝野の法曹として大いに羽撃いておられる。これらの直弟子達と先生の御愛顧を受けた者達が先生を中心として知らず知らず集って会合遂に大月会ができ、毎年一・二回会を開いているが今年は先生の日本弁護士連合会の在職五〇年の表彰を記念して祝賀会を開催することにしている。

このように先生は全国に亘って多くの弟子と朋友知己を持っておられ、日本の弁護士会の隠然たる実力者であり良い意味での大ボスの一人であるが、その所以は岡山人特有の理論家の面を生来であり且長い実務家の生活を通じて一層磨かれた豊かな抱擁力と人間味のある人柄でおおい、理論と実践が渾然一体として融和した人間像にあると思う。

先生のこのような性格は柔かい先生特有の関西弁と相俟って、対話の間に常に明るいうちとけた雰囲気を醸し出し対人的に摩擦を生じたことがないために、大阪弁護士会長また日本弁護士連合会長として各職務を円滑に処理され、それぞれ多くの業績を挙げられたことは長く法曹界の歴史に残るものである。

（昭七大法卒・弁護士・岸井八束記）

六甲山で総会

大阪ダイハツ販売柴秀会

大阪ダイハツ販売柴秀会（町田耕二会長）の昭和四十六年度総会は、去る八月二十八、九日、一泊二日で自動車販売連盟六甲保養所に二十五名参加の下開かれた。

当職域会は、昭和三十四年五月発足以来年年継続して総会を持ち職域内相互の親睦を深めているほか、本部校友総会へも積極的に協力し、今回も十月三十一日の太閤園で開かれる本年度総会参加を申し合わせた。

事務所　大阪市西区阿波座上通一ノ二七新松岡ビル三階（地下鉄3号線本町駅「旧信濃橋」南出入口前）
住所　大阪市西区南堀江立花通五一二岡田マンション
電話　大阪（〇六）五四一一〇六六番（代表）
電話　大阪（〇六）五四一一五〇五五番

寒川労働コンサルタント
衆議院議員寒川喜一事務所
所長　寒川喜一

会と催

▽尼崎支部総会　十月二十一日午後五時半から産業郷土会館で開催
▽阿倍野支部総会　十月二十三日午後五時から天王寺公園前の〝広田家〟で開催。
▽東大阪支部総会　十月二十七日午後六時から近鉄永和駅前、東大阪市民会館で開催。議題役員改選ほか、講演〝国際情勢激動の秋をさぐる〟毎日新聞社調査部長吉田定男氏。
▽関西大学霞友会第一期生同窓会　十月三十一日午後五時半からホテルプラザで開催。世話人は金景勲氏（電話大阪四七一一五四八五）
▽愛知支部総会　十一月六日午後六時から都ホテルで開催。
▽東京支部秋季総会　十一月十三日午後一時から港区新橋一の第一ホテル天平の間で開催。
▽短大同窓会　十一月十三日午後六時から大阪郵政会館で開催。
▽飛鳥の里見学会　郵政関大会天阪郵政局支部・近畿特定局長関大会共催　十一月十四日午前九時大阪駅西口ガード下集合。
▽飛鳥の里見学会　本部事業部主催　十一月二十一日午前八時半大阪駅西口ガード下集合。

飛鳥古京めぐり

11月21日・事業部秋の見学会

校友会事業部では秋の見学会を昨年と引き続いて飛鳥古京の遺跡を見学することになりました。現地の案内は今回も本学考古学研究室網干善教助教授が担当されます。参加ご希望の方は会費を添えてお申し込み下さい。

記

とき　十一月二十一日（日）晴雨不拘
午前八時半大阪駅西口集合
甘樫丘一（明日香村観光会館で昼食）―岡寺―亀石―天武持統陵―鬼の雪隠―飛鳥坐神社―橘寺―石舞台―飛鳥資料館―飛鳥大仏―法隆寺―法隆寺宝物館―中宮寺―法隆寺―斑鳩宮―法隆寺―大阪
会費　一、〇〇〇円（昼食代含）
申込先　吹田市山手町三―三―三　関西大学校友会
申込締切　十一月十日（ただし申込順定員になり次第締切）

新役員を囲んで

西成支部懇親会

校友会西成支部では九月二十七日午後六時から難波のホテルニュー大阪広風で、寒川喜一衆議院議員、大島武天校友会副会長の来賓出席のもとに懇親会を開催した。

会はこのほど就任したばかりの吉川新支部長のあいさつで始まり大島副会長が大学の近況報告を行ない、つづいて寒川氏と三谷久男府会議員から最近の政治情勢についての話があった。のち三谷議員三選祝いに記念品を贈呈し、和田栄太郎氏の乾杯で幕を開けた懇親会は新役員を囲んでなごやかなふん囲気に包まれ、延々三時間に及んだ。当日出席者は二十三名。

なお新役員は次のとおり。

△支部長▽吉川喜三△副支部長▽中嶋久嗣・中西正充・井口守久△幹事長▽井口守和△副幹事長▽山田昌三・榎本博康・天田稔△会計▽的場寅一・矢田武△会計監査▽佐久間正純・野村広一△顧問▽和田栄太郎・三谷久男・辻本幸臣・三好一夫・小林正立△相談役▽北幸司・木村清一・山田信夫・市本賀一△参与▽田村留三郎・石川寛水・上品眞五・島谷直治・水口一夫・岩原金一

◆支部事務所変更

大阪市役所支部（田中重蔵支部長）事務所所在地は次のところへ変更になりました。

大阪市東区船場中央三二船場センタービル七号館三階大阪市環境保健局照務課計理係長石田弘方（大阪市役所支部報）

▽訂正△

前号、体育OB会総会の記事で新役員に誤りがありました。お詫び致します。なお新役員は次のとおりです。

▽名誉会長　矢野文雄（拳法部OB）▽会長　岩佐清三郎（ホッケー部OB）▽副会長　菊川博（野球部OB）　松井清（レスリング部OB）　竈田武（スキー部OB）　北尾郁之介（ア・フットボール部OB）

なお理事と事務局長は各OB会から理事を選出し、その理事会で常任理事を選出する。そしてその常任理事会で事務局長を選出することになります。

前号、新刊紹介の記事で、鈴木祥蔵教授の著書名「幼児教育入門」が「幼児学入門」となっていました。お詫びし、訂正いたします。

大学改革　第一章　入学試験制度の改善

第一次諮問事項に対する答申

入学試験改革委員会（仮称）について

学力検査は、第一次試験である「関大統一テスト」（仮称）と第二次試験である「学部別テスト」（仮称）の二本建とし、両者の成績を合計して、それによって合否を査定する方法である。

A　関大統一テスト

(一) 高校課程の文字どおり基礎的基本的な学力についてのテストでいわゆる受験勉強を全く必要としないように、出題にあたってとくに充分な配慮をする。

(二) その時期は、前年の十二月末頃（高校の冬期休暇中）とする。

(三) 全員同一日に行なう。地方試験も行なう。

(四) この段階では、志願者は志望学部の決定を必要としない。したがって、試験問題はすべて同一とする。ただし、文科系、理科系によって配点を異にし、（たとえば成績通知のときに、文科系配点によると何点、理科系配点によると何点、と二重に得点を示し）、それによって、志願者の志望学部選択に役立つようにする。

(五) 出題は、英語、数学、国語、理科、社会の五教科、すべてについて行ない、知能テスト的なものも加味する。なお、理科、社会の中での選択科目制は行なわず、その代り、理科、社会の基本的な考え方をテストする問題、いわば共通問題的なものを主として出題する。

(六) 出題形式は、すべて客観テスト形式とする。ただし、客観テスト形式固有の弊害が生じないように配慮し、たとえば、減点法の採用も考える。

(七) 試験問題は、「入試センター」（「入学試験体制について」の項参照）において充分な科学的調査を基礎として作成される。

(八) 採点は、すべて電算機によって行なう。そのために、種々の技術的な方法を講じる。

(九) 採点結果は、出身高校を通じて志願者に通知する。

B　学部別テスト

(一) 関大統一テストと少なくとも一カ月以上の期間をおいて行なう。

(二) 各学部異なる日に行なう。この場合、地方試験は行なわない。

(三) 試験科目は、各学部それぞれにおいて必要と考える二―三教科とし、理科、社会については、選択科目制を含む。

(四) 出題形式は、客観テスト形式に論述式（計算問題を含む）を併用する。

(五) 理科、社会の中の選択科目の採点については、各科目の得点の分布が等しくなるように配慮する。たとえば、統計学的な手法を用いる。

(六) その他の点については、関大統一テストの場合と同様とする。

△一高特別選考試験について▽

(一) 第一次試験について

一高からの進学希望者には、一般高校からの受験者に課せられる関大統一テストを受験させる。

(二) 第二次試験について

学部別テストは行なわず、その代りに、次のような調査書を一高から提出させる。すなわち、調査書には、とくに志望学部の学部テスト科目に相当する教科についてはその試験成績を一〇〇点満点等の絶対値で記入させる。

(三) 査定について

関大統一テストと志望学部テスト科目に相当する教科の試験成績を合算した特別査定を行なう。

△入学試験体制について▽

入試体制改革の具体化は、「委員会制度の機能・役割の明確化」「入試センターの設置」を柱とする組織上の整備・確立をはかることとなろう。

A　委員会制度の機能・役割の明確化

(一) 入学試験委員会は、入学者選抜に関する議決機関として、次のことを審議、決定する。

①学生募集についての経年的計画②選抜方法（試験科目、高校成績評価、配点等）に関する基本方針③試験期日、合格発表期日④出題、採点に関する基本方針および出題・採点委員の選任⑤高等学校への広報および進学指導に関する基本方針⑥第一高等学校からの入学に関する基本方針⑦その他入学試験に関し教務統括上必要と認めた事項

(二) 入学試験実行委員会は、入学者選抜に関する執行機関となり、入試問題の作成・印刷・校正・保管・配送、答案収集、採点、資料作成、高校成績評価等、入学者選抜に関する実際的業務を計画、実施する。

(三) 出題委員は、試験問題の作成編集、印刷、校正その他出題に関する必要な業務を行なう。

(四) 採点委員は、入学試験の採点に関する必要な業務を行なう。

B　入試センターの設置

(一) 入学試験委員会のもとに「入試センター」を設置し、入学者選抜に関する専門的知識を有する職員を配置して、下記にかかげる職務を分掌する。

①高等学校および社会一般に対して、大学の内容と選抜方法等を周知させるための広報活動の企画・立案、入学相談に関する事務②高等学校成績、大学学業成績等を通ずる追跡調査研究およびこれらに関する諸資料の収集・整理に関する事務③学力検査に関する妥当な方法の開発研究およびそれに関する諸資料の収集・整理に関する事務④入学者選抜の準備および実施に関する事務

△教養改革委員会（仮称）について▽

すでに本学には、一般教育（外国語、保健体育を含む）にかかわる諸問題の審議・決定機関として教養委員会が機能しているが、その際、関係諸問題の技術的な処理についてはともかくとして、より基本的な問題の審議にあたっては心ずしもその責任権限の所在が明確にされておらず、とりわけ各学部教授会との充分な意思疎通を欠くきらいがあったと思われる。

一般教育の改革という根本的かつ全体的な重要問題を処理するためには、何よりも各学部の特殊性ないし独自性をふまえたうえで全学的な方針の企画と立案が、慎重かつ適正に進められるべきことは論をまたないところである。そのことは、一般教育の改革と、国語教養の際、関係諸問題の審議については、基本的な問題の審議にあたっては心ずしもその責任権限の所在が明確にされておらず、とりわけ各学部教授会との充分な意思疎通を欠くきらいがあったと思われる。

一般教育の改革という根本的かつ全体的な重要問題を処理するためには、何よりも各学部の特殊性ないし独自性をふまえたうえで全学的な方針の企画と立案が、慎重かつ適正に進められるべきことは論をまたないところである。そ

第二章　一般教育等の改革

の意味から、われわれは、現行の教養委員会とは別個に「教養改革委員会」（仮称）を設置して、これが、各学部と密接な連絡をとりつつ、全学的な調整を保って一般教育・基礎教育に関する改革の実施・運営や綜合科目の編成ならびにその他改革重要事項の企画と立案にあたるべきことを提案する。なお、これは、教学部長、教養部長の主宰により、教養部長、教養部長代理および各学部長代理による九名を構成メンバーとすることが適当であると考える。

第三章　学生の厚生補導

△厚生補導に関する組織について▽

教育の一環としての厚生補導の領域を、全学的、一元的に総括担当する組織として、学長のもとに①厚生補導について、その基本方針、施策等の大綱を企画・立案する機関として、「（厚生補導）の委員会」を常置する。②厚生補導業務の執行にあたる機関を設置しその総括者として「（厚生補導担当）の長」をおき、事務部局を掌理して業務の執行にあたる。

なお、厚生補導についての全学的な最終的意思決定は、学長の主宰する全学的規模の機関（例…厚生補導会議）において行なうものとする。

また、「（厚生補導担当）の長」のもとに、厚生補導の領域を分類して、それぞれの方針と実施計画を検討するところの「専門委員会」を設けるものとする。設置する専門委員会は、①（厚生補導）専門委員会、②（課外活動関係）専門委員会、③（学生相談関係）専門委員会、④（厚生福祉関係）専門委員会、⑤（保健関係）専門委員会、⑥（就職関係）専門委員会、とし、その担当事項は、それぞれ、①はオリエンテーション、課外教育、その他全般事項、②は課外活動およびそれにともなう施設、③は学生相談、④は奨学援護、学寮・住居、厚生福祉施設、⑤は保健、⑥は就職、とする。

なお、学長のもとに常置される「（厚生補導）の委員会」と「（厚生補導担当）の長」のもとに設けられる「専門委員会」との関係は、本来、「（厚生補導）の委員会」が原案策定についての権限を有するものであるが、組織の能率化のため、「（厚生補導）の委員会」は重要なものだけを直接審議決定し、その他の事項については各専門委員会に委託するのが適当と考える。

第四章　第二部教育の基本問題

第二部については、種々の問題が諮問されているが、一・二部平等原則の立場から、もっとも基本的と考えられる問題を検討した。

△対策▽

本学としては、新制大学発足にあたって、第一部と第二部との平等主義を標榜し、制度上は単に授業を第一部と第二部（夜間）とに区分するにすぎない実質的同格化を企図していた。この平等主義は今日においても堅持されなければならないとするならば、それが、形式化している現状を是正する必要がある。このためには、抜本的改善以前に、まず第一部と第二部との入学試験は、同一科目、同一問題で同一日に実施し、同一基準に準拠して合格者を選抜すべきである。そうすることによって、夜間授業でなければ出席できない向学心に燃えた勤労青年のための第二部という性格に近づけることもできるであろう。

要するに、入学時における第一部と第二部の学力差の解消なくしては、平等主義の形骸化から脱却することはできず得ないし、他のいかなる方策も問題の本質を糊塗するにすぎず、この平等主義を数年堅持するならば、その後に招来する事態を前提として、今日諮問されている諸問題に具体的に取り組むことができると考えられる。

（関西大学通信より具体的提案を中心に抜粋）

弁理士会で講演

木村、来住両教授が

九月十八日午後一時から大阪市北区梅新東ビル清交社において本学商学部木村滋・来住哲二両教授が「国際通貨と円切り上げ」について関西在住の弁理士のために講演した。これは弁理士会研修委員会の主催によるもので、工業所有権制度の国際化に伴い、時局に応じ知識を吸収する為の企画され、両講師も弁理士会よりたっての要望に答えたものである。聴講者は二十名で、午後四時過ぎ好評裡に終了した。

会員募集

短大同窓会

一部二部合同総会開催。奮ってご参加下さい。

日時　十一月十三日（土）午後六時
場所　大阪郵政会館
大阪市北区太融寺町（梅田花月劇場前）
電話（三六一）〇五六五・〇五六六
出席者連絡先　〒532―1　枚方市大字長尾二二四五―一四　木村吾郎
電話　〇七二〇（五七）六六六九

住友セメント特約店
原田セメント化工株式会社

JIS規格表示工場
泉州生コンクリート工業株式会社

新建材の総合代理店
大統商事株式会社
代表取締役　原田重信
本社　大阪市北区朝日橋通二―十三
電話　四六二―一二一二代表
生コン工場　岸和田市上松町三十五番地
電話　〇七二四（三九）四六六七番

南紀　和歌山　四国でのお泊りは
南海サービスチェーン〈ホテル　旅館〉

◇白浜温泉　白浜随一の景観　国際観光ホテル　ホテルパシフィック
◇勝浦温泉　忘れえぬ　はまゆうの宿　国際観光旅館　朝日
◇湯峰温泉　海に浮かぶパラダイス　国際観光旅館　中の島
◇湯峰温泉　山のいで湯でぼたん鍋　国際観光旅館　湯の峯荘
◇新和歌浦　海岸美が楽しめる　国際観光旅館　萬波
◇徳島鳴門　うずしおの宿　国際観光旅館　鳴門
◇紀北橋本　ゴルフの宿でアユ料理　観光旅館　紀の川苑
◇泉南淡輪海岸　魚つりに　ゴルフに　観光旅館　淡の輪苑
◇大阪なんば　清楚で近代的なホテル　ホテル南海

お問合せ
お申込み
南海交通社
日本交通公社
サービスチェーン大阪案内所
06―(631)―0222
東京銀座南海綜合案内所
03―(543)―2854
南海電鉄

制禦盤配電盤製作・計装工事
共栄電器工業株式会社
取締役社長　柳楽喜祐
本社　〒660　尼崎市杭瀬北新町1丁目3番地
電話大阪(481)8807～0番(代表)・(489)3041番
東京営業所　〒176　東京都練馬区早宮2丁目26番25号
電話東京(932)6266～7番

関大博物館構想〈8〉

無用の用たる施設

関大講師　小野勝年

関大付属博物館によせる夢

或年のレポートに「私の理想とする博物館」と題して「美しい青草の丘に小さな博物館を建て、縄文・弥生・古墳時代の遺物を展示し、かたわらに自分の研究室をそなえ、見る人々にも快く解放したい」という意味が記されていた。記述は素朴であったが、自身の体験から生まれた純真な意見であるだけに、却って深く印象に残っている。新学年度がはじまって登学する頃になると、学舎は新緑につつまれ、銀杏・アカシヤ・ヒマラヤ杉、図書館前の大カシも若芽がのびる。桜はちらほらとなるが、盛期の見事さは素晴らしい。知育と体育とを兼ねた充実した大学だと、私も張切って坂を登りながら、何時も付属博物館がほしいなあと考えるのである。

博物館の歴史は古く、名称の起こりは三千年も前のアレキサンドリヤの大学の付属施設にはじまると説かれている。しかし現代のような実物の収集・保管・研究・展示の場という形態が整うに到ったのは十八世紀中頃であった。わが国も欧米の影響で幕末から歴史の幕が開かれるが、実際に踏みだしたのは維新以後であった。そして発達に大きく貢献した一つに博覧会開催があり、規模が大きいだけに万国博によって一段の進歩をした。

エキスポ70の教訓

万国博は百年前にロンドンで開かれたのが始めで、その跡は広く美しい公園となり、水晶宮のあったあたりから南にかけて、現在、博物館や種々の施設が建っている。第四回ウィーン万博は明治六年で、わが国も始めて参加し、独人鳴托ワグナーの指導もあり、一行六十人が真剣に勉強して帰った。パリのエッフェル塔は第九回の建築で、セーヌを渡った北側一帯には当時から引続き色々の展示施設が建っている。日本万博は第二十一回目に当たる。お隣りでの事とて、私も時々見学した。人類の調和と進歩をうたった会場で、自国で産出もしない石油を示々と燃やし、得意がっている着想は未開人の火祭同様と解され、出光館の前に立つときは悲鳴がこみあげたが、北欧五カ国のスカンジナビヤ館で「オジサンのためになるよ」とたどたどしい日本語の案内嬢に導かれた「産業社会における環境保護」のテーマ館のことき、展示法は必ずしも第一流ではなかったが、燎(りょう)原の火のように国に広まった公害問題を暗示していた。二時間も待たされて入った三菱未来館であるが、こんな未来なら再び生れかわる必要もないまいと感じたものの、最後の部屋に立ったとき、私は「未来とは青春である」と悟った。

エキスポ七〇がわが国にどんな影響を及したか結論するのは未だ早いが、博物館関係でも施設や展示法で学び得たものが多いに相違ない。博物館は事業を盛んにして、この施設が不用品の「つば捨て山」だという俗観念だけでも早々洗い流し、生々とした明日への夢を托する所にすべきであるとの刺激を受けなかったか否か。地元だけに、ある面で微力ながら協力した本学でも、これを契機に一つ何か始めてもよいのではあるまいか。

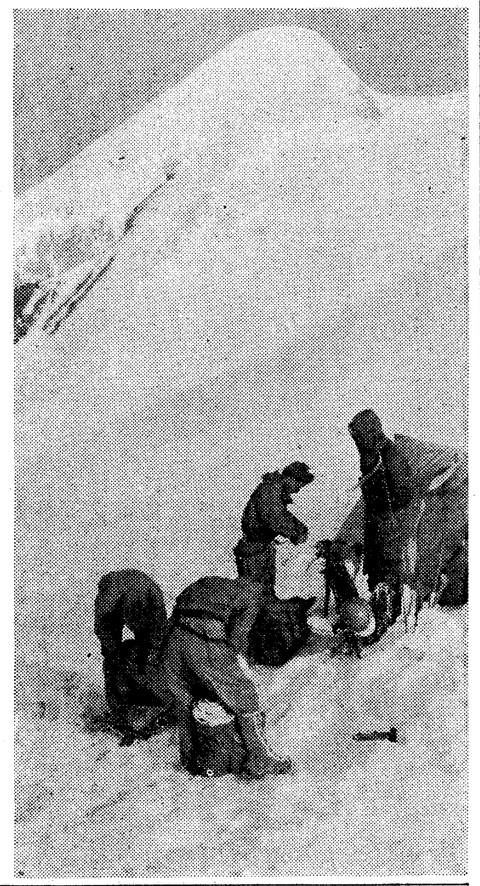
博物館の種類はさまざまである。本学付属博物館の構想などについても意見が色々とあるであろう。否、今のところ設置の要不要論の段階に低迷しているのが実情だといえるかも知れぬ。私は「無用の用」たる施設として、学生諸君が導攻外でも親しく立寄り、展示品に心引付けられ、青春が求める広い教養やリクレーションに役立ち、学生生活の思い出の一つになるならば、それだけで絶大な価値があると考えている。加うるに博物館学の講座があって、学芸員としての人材の養成に当たって以来、もう十カ年近い。

建築形式は二の次

博物館学講座がある以上、付属博物館は必要である。他所の館を利用できないではないが、自学の施設がほしい。多くの考古資料の集収に努められた末水名誉教授は、かつて東京国立博物館の表慶館のような宮殿式がよいと語られた。表慶館は今、考古品の陳列場になっている。私はそのとき冠都施設が夢ではなくて、当然であってよいのではあるまいか。最新突現したいものである。

博物館は必要である。他所の館を利用できないではないが、自学の施設がほしい。多くの考古資料の集収に努められた末水名誉教授は、かつて東京国立博物館の表慶館のような宮殿式がよいと語られた。表慶館は今、考古品の陳列場になっている。私はそのとき冠都施設が夢ではなくて、当然であってよいのではあるまいか。最新突現したいものである。

すべきではなく、将来の増設を予想しての建造物でありたい。保管しなければならない資料は増加しつづけるであろう。先ず活用的な収蔵室がほしい。学宝とは学生諸君の「たましい」の中に見出されるべきものであるが、本学には学術資料として誇るに足る多くのものを持っている。この意味での学宝の常設展示と共に、時々テーマを変えて展示する場所もほしい。博物館学を学び、学芸員の資格や人間形成を忘れず学生のための実習と研究の場の充実は申すまでもなかろう。これらの場を兼ねた学内施設が夢ではなくて、当然であってよいのではあるまいか。最新突現したいものである。



8時間のアタック

マウント・センリ群に登頂

アラスカ遠征報告—2—

前回はアラスカの概要とアンカレッジでの活動模様を報告させていただきました。

アンカレジから氷河へ

領事館、メソジスト大学、アラスカ山岳会等の渉外と食糧、装備燃料等の調達を五日間ですませ、アンカレッジを発つ。

六月十五日早朝、オートキャンプ場を払い、氷河をいだく山岳地帯へ向かう。週に一度の定期バスがハイウェイを突っ走る。マタスカ渓谷を行くバスは私たちの他には二人の客をのせているだけだ。百㌔を越えるスピードで行くバスの車窓の景色はまさに「アラスカ」そのものだ。右手にチュガチ、ランゲル山脈が雄姿を展開し、峠を越せば、湖をちりばめたタイカ地帯と野生動物の原生林が続く。七時間余で、パクソンに着く。これからの入山は徒歩では不可能で、ブッシュパイロットが操縦する小型飛行機を利用しなければならない。草原とほとんど区別のつかない簡易な滑走路の横にテントを張りパイロットを待つ。

チャータ機着陸に失敗

翌六月十六日は好運にも三十五日ぶりの好天となる。パクソンから目的の氷河へセスナ機で飛ぶ。五人の隊員と約五百㌔の物資を二便に分ける。第一便に三名が搭乗の荷物を携えて飛び、予定のトライデント氷河をまず偵察したが、クレバスが発達していて着陸できず、西側のスーシトナ氷河に降りることにする。機は着陸態勢にはいってまもなく、左手後方より風を受け着陸に失敗、仰けに転覆した。

機は使用不能となったが、幸いにも松本隊員とパイロットがともに顔に軽傷を負っただけですみ、パイロットは翌朝空軍ヘリコプタで救出された。

ベースキャンプ設営

この事故でパイロットはここに第二便を着陸させることを担み、第一便の三名は食糧、ガソリン等の不足のまま二十二日荷物の投下まで耐乏生活を強いられ、結局第二便は六日後に約45㌔下流の氷河に着陸した。

さらに二日後の二十四日にやっとスーシトナ氷河源頭に会員が集結し、ベースキャンプを設営できる。この事故で予定の四十日のうちベースキャンプの建設・移動・撤収に計十六日損失したことになり登山計画を練り直す。

マウント・センリに初登

ヘイズ峰の南東につづく、白い大きな無名峰（マウント・センリと命名）の登頂活動を六月二十六日開始する。

スーシトナ氷河の支流を測り、トライデント氷河とのコルに翌二十七日、十日分の食糧を揚げ前進キャンプを建設する。この日、雷雪を伴った大粒のアラレの洗礼を受ける。

悪天に悩み、五日間の苦闘の末雪と氷の稜線を辿りマウント・センリ直下のコルにアタック・キャンプを設営する。再び天気は悪化したが、回復の兆の見えた七月五日全員でマウント・センリの前衛峰に初登する。

前進キャンプへ一度、アタックキャンプへ二度食糧のサポートを行ない、七月六日やっとアタック日和が訪れた。宮本、茜村両隊員は四時半起床、六時の交信後センリ峰をめざし出発した。快晴無風、前進キャンプでは七四二㌳の気圧マイナス四度と好条件。一時間毎の交信でアタックの様子が伝わってくる。氷塔、クレバスを越え足下千尺も切れ落ちたヒマラヤピクがギラギラ輝くナイフのような雪稜を辿ること六時間、十二時五十五分ついにマウント・センリⅡ峰の頂に立つ。ついで二時二十五分最主マウント・センリ峰（3767㍍）の登頂に成功する。下降時にⅢ峰へも登り、十二時半に及ぶ行動の末、無事アタック・キャンプに戻る。

翌七日、前進キャンプに待機中の安沢、松本両隊員はアタックキャンプ撤収後、こんどは北へ続く雪稜の辿り、トライデント・ピークに初登する。

八日ベースキャンプに帰着し、十一日キャンプをヘイズ峰南稜直下に移す。七月二十六日、ピックアップ点に全員集結する。この十七日間、終日晴天は一日もなかった。

七月二十九日、夕食後パイパー機飛来、ハイウェイのブラックラビッズに三便で出た。

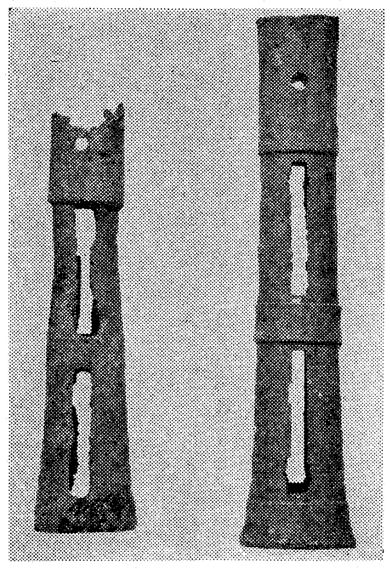
おわりに

氷河では珍しい「赤い雪」を見ることができました。また、氷河付近での土壌採集はほとんどできず、途中の街や草原で少し採りました。

文末ながら、この隊の派遣には校友会事務局はじめ多くの校友の皆様にお世話になりました。紙面をおかりしてお礼申し上げます。

（探検部アラスカ遠征隊　隊長　中野　力記）

考古学入門（20）



筒形銅器

古墳出土の青銅器の一種で、用途は石突あるいは杖頭、剣把などの類ではないかと考えられているが詳でない。

右は長さ15.2㎝、口径2.3㎝、底径3.2㎝。中空で下端を塞ぐ。上中下段の突帯があり、幅4.0㎝の上の帯の中央部に貫通した目釘孔を設け、幅1.1㎝の中央の帯の上下には縦4条の透しがある。下帯幅1.3㎝、貫通の目釘孔がある。左はやや小形で長さ12.4㎝。やはり中空で上下2段各々4条の透しを施す。ただ突帯は幅3.1㎝の上帯だけある点、左のものと形式を異にする。口径2.1㎝、底径2.8㎝。

書斎の窓 —(20)—

上林　良一

バークレーで会った二人の日本人

政治社会学の基本的性格

カリフォルニア大学国際問題研究所は、私が一九六五年四月から一年間、関西大学在外研究員としてすごしたところである。バークレー市チャニングウエイの三階建の研究所のなかでも、もっとも広い部屋が私の研究室として提供された。研究所長リプセット教授（政治社会学）の紹介によるため、親切な秘書ストーカー女史のおかげであろうか、私は到着するや否や、二階の立派な部屋を占領することができた。はじめは「Science and Society」誌上に寄稿をふるっていたJ・ピトラ君と一緒だったので、ピトラ自身大きい役割を果たしたF・S・M（一九六四年秋から冬にかけてバークレーキャンパスにおこった言論自由（フリー・スピーチ）をかかげた学生運動で、その後の世界的な学生運動の先駆。いわゆるバークレー反乱といわれた）について話しあったりしたが、「自分は静かな地下室で勉強する方がよい」といって、彼があまり姿を見せなくなってから、その研究室はほとんど私の個室となった。それは、在外研究中の私にとって文字通り「書斎」であった。

この書斎で勉強しながら、リプセット教授やコーンハウザー教授を訪問したり、老エデガード教授の消息をたずねたり、労働社会学のウィレンスキー教授のセミナーに出席したりした。

ここで副所長アプター教授と「近代化論」について論じあい、彼の著書『近代化の政治学』を編訳することになった。関大学の内山秀夫教授とともに、リプセット教授と中道氏の収論案の比較研究を早くから唱えておられる永井道雄氏などが、大学改革運動にも熱心であり、当面の学生運動にも積極的に、時代の要求としてとりあげてゆこうとする態度が見られた。バークレー反乱への永井氏の現状分析の眼に、工業大学教授永井道雄氏（現朝日新聞社論説委員）であった。

一九六六年七月から三カ月滞在された、世界を震撼させたバークレー反乱が中心となった。大学公認の「言論自由」の背景にはユニークな人種問題やベトナム反戦運動がからんでいること。また学内ではスカラピーノ教授の提案よりも、リプセット教授ら中道派の収論案がたくみに世論をまとめたことを強調していた私の考え方がまことに隙間に見えるほど、永井氏のそれはすぐれた政治論であったという観察など、傾聴にあたいするものであった。反乱の首領マリオ・サビオがイタリアのシチリー島出身であり、この事件の背景にはユニークな人種問題やベトナム反戦運動がからんでいること。また学内ではスカラピーノ教授の提案よりも、リプセット教授ら中道派の収論案がたくみに世論をまとめたことを強調していた私の考え方がまことに隙間に見えるほど、永井氏のそれはすぐれた政治論であったという打明け話をしてもらったので、「異色ある人間像」（講談社）にあげられた、組織にたよらず個性的に生きる理想的人間像を学んだ。とくに松村謙三、角田柳作、高橋邊之助、鶴原雪重郎等の人間像は、流動する日米関係、日中関係をむかえる今日、あらためて日本国民の道標となるべき人々である。同時にそれは、大学人としての私に、「たたかう自己」であったという打明け話をしてもらったのは、多分私へのエンターテインメントであったのでしょう。比較文学を専攻する私の友人マーケン君（関大で英語教師を勤めた）が来日したとき、伊藤氏が研究や就職についてお世話下さったのも、物静かで謙遜な人柄とともに忘れられない思い出となった。

きたる十月十六日、十七日、十八日の三日間、関西学院大学で開催される日本社会学会大会では、理論部会、地域部会、産業部会、農村部会という六つのテーマ部会がおこなわれる。これら六つのテーマをみると、私自身が関心者として参加する政治部会が、「政治社会学の構想と研究課題」をとりあげるのは、「地域社会の変化と住民運動」（地域部会）、「産業化の日本的特質」（産業部会）、「現代農民生活把握のための方法論」（農村部会）等をテーマとしているので、今日の日本社会学の発展が、総合化と現実接近の方向をたどっていることがよくわかる。私にあたえられたテーマ「日本社会における政治社会学の構想と研究課題」も「アジア社会における政治社会学の構想と研究課題」とともに、総合化と現実化の方向、とくに現実問題解決への意欲をこめずべきものであろう。

私は学会無記名投票のなかで次のように述べている。「先ず第一に、いかなる特殊社会学の対象も、たとえば家族生活も都市生活も教育の機能も、日本における巨大な権力状況や政治からの影響を脱することはできない。社会現象を横断して流れる「政治的本質」を無明することを任務として登場したのが、政治社会学であるといえよう。」バークレーで会った二人の日本人の政治社会学の基本的性格は、多面的でかつ非常にすぐれていた。その水井氏は、二人で日本の政治学の教育政策の貧困を嘆いていたF・S・M運動の背景は、大学の教育政策にありながら革新的教育論を展開した文教委員長故北村徳太郎氏を激賞され、偉大な政治家を校友とする進歩的大学として関西大学を称賛されたのは、大変嬉しいことでしたが、私は内心微苦笑を禁じえませんでした。私は水井氏から冬にかけてバークレーキャンパスにおこった言論自由（フリー・スピーチ）をかかげた学生運動で、その後の世界的な学生運動の先駆。いわゆるバークレー反乱といわれた）について話しあったりしたが、「自分は静かな地下室で勉強する方がよい」といって、彼があまり姿を見せなくなってから、その研究室はほとんど私の個室となった。それは、在外研究中の私にとって文字通り「書斎」であった。

この書斎で勉強しながら、リプセット教授やコーンハウザー教授を訪問したり、老エデガード教授の消息をたずねたり、労働社会学のウィレンスキー教授のセミナーに出席したりした。

ここで副所長アプター教授と「近代化論」について論じあい、彼の著書『近代化の政治学』を編訳することになった関大学の内山秀夫教授とともに、リプセット教授と中道氏の収論案の比較研究を早くから唱えておられる永井道雄氏などが、大学改革運動にも熱心であり、当面の学生運動にも積極的に、時代の要求としてとりあげてゆこうとする態度が見られた。バークレー反乱への永井氏の現状分析の眼に、工業大学教授永井道雄氏（現朝日新聞社論説委員）であった。

一九六六年七月から三カ月滞在された、世界を震撼させたバークレー反乱が中心となった。大学公認の「言論自由」の背景にはユニークな人種問題やベトナム反戦運動がからんでいること。また学内ではスカラピーノ教授の提案よりも、リプセット教授ら中道派の収論案がたくみに世論をまとめたことを強調していた私の考え方がまことに隙間に見えるほど、永井氏のそれはすぐれた政治論であったという打明け話をしてもらったので、「異色ある人間像」（講談社）にあげられた、組織にたよらず個性的に生きる理想的人間像を学んだ。とくに松村謙三、角田柳作、高橋邊之助、鶴原雪重郎等の人間像は、流動する日米関係、日中関係をむかえる今日、あらためて日本国民の道標となるべき人々である。同時にそれは、大学人としての私に、「たたかう自己」

日中卓球交歓の20日間

山本弥一郎

北京の首都体育館、一八、〇〇〇人を収容する大会場はすでに超満員で、日中ジュニア交歓卓球大会の第一戦が、八月十八日午後七時半から開かれた。

僕は、郭沫若先生（中日文化交流協会名誉会長）とご夫人の間で観戦していた。

郭沫若先生ご夫妻とは、その前、各日訪中団一行五十七名（日本ジュニア卓球選手団二〇名、日本卓球協会参観団一九名、随行新聞記者一八名）の歓迎パーティーが、北京飯店であった時、メインテーブルにて郭沫若先生のご健康を祝して、マオタイ酒の乾杯をしてなどと、マオタイ酒の乾杯をして、二度目のことであったが、ご老体ながら可くれとなくご配慮して頂き大変感謝していた。

しかも今日開かれる日中交歓卓球大会の第一戦に列席されると伝えられるや、会場は殊のほか盛り上がっていた。

そして日中ジュニア選手たちの手を握りあっての入場は、満場をいやが上にもわきたてていた。

郭沫若中日文化交流協会名誉会長（右）と握手する筆者

友田弟一、鏡谷第二のスローガンは又手廻りにあらわれて、相方のファインプレーには強い拍手が送られていたのである。

そこで僕は通訳を通じて、郭沫若ご夫人に、中国の観衆は立派でスポーツマンですねと話しかけた。

ところが、次のような言葉が返ってきた。

一、新しい思想
一、新しい風格
一、新しい友情
一、新しい技術

そこで新しい人間性が生まれ、新しい中国があります、ということであったので、その言葉は毛主席のですかと質問したところ、これは、今、一八、〇〇〇人の観衆人民を見ながら頭に浮かんだものです、ということであった。

文化大革命以後の中国を知っている人の少ない折、幸いにも北京に八泊、上海四泊、長沙二泊、広州二泊と国賓待遇を受けながら、参観団や、新聞記者に解放された大学、中学、小学校、農、工業の人民公社、農家の生活、工人アパートの生活、工作機襲逼工場、電機工場、ジーゼル工場、そして醤油工場、そして、その他ギョウザ詰まった強行スケジュールを熱心に見学できた。

しかし、中国の人達は解放以前の中国と解放後の中国を比較され人民も貧、解放後の、生活の安定を感謝し、これひとえに毛主席のお陰であると、生々としていることが我々の眼にうつったのである。

中国には蝿は一匹もいない、道路は清潔だ、と聞いていたが、人民公社の牛小屋にも、養豚場にも蝿は飛んでいなかった。

道路の清潔なのは、日中友好のバッジを与えたり侯の通訳手が、バッジを包んでいるビニールをポケットに入れて、道路に捨てなかったことでもわかるように、中国の人たちに総てが徹底している大きな姿をしみじみと感じた。

また僕たち選手団、参観団、新聞記者には北京から広州で別れるまでの二十日間同行してくれた役員二八と通訳八人に、広州でお礼のしるしにボトルを贈ろうとしたところ、役員代表から、我々は毛主席のため人民服務の教えにしたがっているので、個人的にお礼を頂くことはできない。どうか我々中国人の友情をお土産にしてもらいたい。しいて贈られることは我々の心を傷つけることになります、と反駁されてしまった。

中国の人たちの服装は立派とはいえぬが、皆洗たくして清潔である。服装がなんた、白粉が何だ、毛主席の人民のために服務するという強い信念が満在の中国の姿であるのである。

（日本卓球協会副会長・大阪卓球協会長・本学講師・日本卓球協会参観団団長・大11卒岡竿）

おねがい

次の方は現在連絡不能になっておりますので、ご存じの方は吹田市山手町三―三―三五関西大学校友会名簿係までお知らせ下さい。

（）内は旧姓名。

昭和19年9月学門部二部

▽法律学科　安藤権三　足立武男　赤崎博　浅沼裕　荒木興一　有賀義雄　有本公郎　井口逸　伊藤中一雄　伊藤中子郎　井上雄一（笠井）　伊藤正富　石井年夫　石井昇　石川治　石黒義信　石田敏二　石川爽沢　稲葉一　石田千里　宇野吾勝　上田清　上敬清一　内芝誠吾　内田英一　内浜定好　打田元　海野電平　枝常茂久　小木曽和夫　小野山義　大藤甲　大橋市三　大橋忠彦　大藤勝　大山岡北人　岡武岡本海大　表米厳　改正保之助　笠井義雄　笠松純　金子武一　金城吾雄　金原輝　鶴沢忠　河合正　黒瀬治　天黒信秀紹　小玉元助　小山田忠義　山田正治　安藤憲吾　吉田武夫　良竹守男　渡瀬克美

▽法律学科　朝倉光持　岩崎勉　江口清　桜本和夫　小国豊　大川八郎　加賀源和　鴨金恒人　川原八郎　小野田義信　長江武夫　藤尾辰男　渡瀬克美

昭和20年9月学門部二部

▽法律学科　安藤権三　足立武男　赤崎博　浅沼裕　荒木興一　有賀義雄　有本公郎　井口逸　伊藤中一雄　伊藤中子郎　井上雄一（笠井）　伊藤正富　石井年夫　石井昇　石川治　石黒義信　石田敏二　石川爽沢　稲葉一　石田千里　宇野吾勝　上田清　上敬清一　内芝誠吾　内田英一　内浜定好　打田元　海野電平　枝常茂久　小木曽和夫　小野山義　大藤甲　大橋市三　大橋忠彦　大藤勝　大山岡北人　岡武岡本海大　表米厳　改正保之助　笠井義雄　笠松純　金子武一　金城吾雄　金原輝　鶴沢忠　河合正　黒瀬治　天黒信秀紹　小玉元助　小山田忠義　山田正治　安藤憲吾　吉田武夫　良竹守男　渡瀬克美

▽経済学科　朝倉光持　岩崎勉　江口清　桜本和夫　小国豊　大川八郎　加賀源和　鴨金恒人　川原八郎　小野田義信　長江武夫　藤尾辰男　渡瀬克美

▽文学科国漢専攻科　石原厚　中前力也　水井徳吉　長野勝忠　成松武憲　難波信之　西井滋　西川新道　西村俊一　羽島武彦　畑甲久之　花島勝治　原山弘　平石武　平尾登　兵頭秋人　藤井清　藤原邦宏　松井保　湯浅行　前田茂　前田寛　松井保　丸橋一照　三井学夫　三浦睦平　三宅本才男　村田保雄　室正　安田周一　森哲矣　森屋義一　八島大吉　渡辺二　森哲矣　森屋義一　八島大吉　渡辺二　弧東　山田正治　山田正下　山村堅南　湯浅　吉田正文　渡瀬克美

▽商業学科　足立道威　芦田利雄　石浦繁　今村亀市　永戸敏夫　小石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　都島真人　大東町二　大野一　大見玉恵二（昭38学経）　名古屋　市西区東岸町一一五　奈良県　御船町二―三―三　大阪市　石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　桜本和夫　小島洋一（昭42学経）　大阪市　垂水区西垂水町二―三　名古屋　柴崎町一五五　調布市　田谷敏二（昭49学社）　東京都　中野区塩町三―八―一四渡辺ビル二階旭通信社員寮　鹿児島　原栄　鯉田洋　佐々木彰　斎藤清　県大島郡瀬戸内町泊井　鳥越民雄（昭44学法）　四日市　市伊倉二―一八藤牧方　橿原市上品寺町三九八―七　東京都　中央区八重洲二―三芝同ビル一〇階日本ビューホテル㈱東京案内所内　中井正五（昭14専二商）　大阪市　住吉区長居町中四八―七―五　小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

▽林恒久（昭11専一商）　川西市南区曽根崎上一―八【喜久屋洋鉄店】　▽桧垣勇康（昭32学二経）　大阪市此花区四貫島大淀一―一二【市立橋小学校】　▽平井英雄（昭35学一商）　豊中市新千里西三―一〇―七―二〇　▽平田理登（昭46学工電）　豊中市豊南町南一―七―一三㈱東洋現像所】　▽藤原勝（昭11二商）　大阪市住吉区長居東一―一二【市立住吉区民会館】　▽成松勝（昭11二商）　大阪市住吉区長居東一―一二【住吉郵便局】　▽福見信夫（昭41学二商）　和歌山市茶屋の丁三真砂荘【住友生命保険㈱和歌山支社】　▽松田政夫（昭11専二法）　名古屋市千種区北千種町竜月一三二千種住宅WE一号【中部公安調査局】　▽林井義和（昭34学一法）　御所市七二一―七【司法書士・土地・家屋調査士・行政書士開業】　▽林弘一（昭17専二商）　門真市東地区四貫島大淀一―一二【市立橋小学校】　▽平井英雄（昭35学一商）　豊中市三【三井倉庫港運】　▽平田理登（昭46学工電）　豊中市豊南町南一―七―一三㈱東洋現像所】　▽藤原勝（昭11二商）　大阪市住吉区長居東一―一二【住吉郵便局】　▽福見信夫（昭41学二商）　和歌山市茶屋の丁三真砂荘【住友生命保険㈱和歌山支社】　▽松田政夫（昭11専二法）　名古屋市千種区北千種町竜月一三二千種住宅WE一号【中部公安調査局】　▽伊賀定盛（昭19大法）　豊岡市三坂町　▽池田康雄（昭39学一商）　姫路市北条市住吉六　▽五月坂正孝（昭41学一法）　河内長野市喜多町　▽石原治司（昭38学工金）　大津市　▽石山寺辺町公園石山団地一―一〇　▽鍬山知男（昭39学一商）　茨木市春日三―一―一　▽板野宏二（昭44学一経）　山口市吉敷四一六七―二北沢産業山口営業所内　▽蒲田保雄（昭42学一商）　高槻市　▽上野鉛治（昭42学一経）　熊本県八代郡鏡町大字八代四百鶴鉛ジャスコ寮　▽植田保宏（昭44学一商）　西宮市　▽鳴坂信一（昭42学一経）　豊中市　▽岡本敏夫（昭36学二商）　豊中市　▽岡本敏夫（昭42学一新）　出雲市塩冶町高西　▽奥川英樹（昭41学一史）　川西市下加茂一―九一―三　▽奥田勉（昭45学一英）　東大阪市　▽大須賀一（昭45学一法）　東大阪市　▽葛西勉（昭37学二商）　高槻市野田町三八〇―四五　▽加野富一（昭41学一商）　大東市深野三―一―三六　▽川尻武一（昭39学一英）　寝屋川市大字三井四―五―一　▽川村幸雄（昭45学一経）　大阪市西淀川区西島町五〇八　▽木佐貫勉（昭40学一経）　神戸市灘区琵琶町一　▽九里哲司（昭46学一経）　大阪市東住吉区平野野蓋町六七四　▽倉橋康尊（昭41学一法）　藤井寺市国府二―一―一五　▽桑田博文（昭44学一経）　福山市御船町二―三―三　▽小島洋一（昭42学一経）　大阪市都島区大東町二―四―四　▽児玉恵二（昭38学一経）　名古屋市西区東岸町一一五　▽小寺和男（昭25専二法）　奈良県　▽小林明（昭44学二法）　茨木市東奈良二―二―七二

▽小堀欣二（昭10専一商）　東京都　杉並区南荻窪二―一〇―一〇　▽坂井千城（昭38学工電）　富田林市須賀町六―三　▽笹井徳男（昭41学一法）　羽曳野市伊賀二―八―一　▽笹川和正（昭45学工機）　八尾市福万寺町南三―二―五松下電器　▽篠田義一　当麻清雄　中辻深　中水雲八郎　伸尾春光　西山大示　大山泰三　奥山勝夫　桐山元治　栗原甲子郎　笹井保　信谷憲之介　谷谷子了一　玉田弘　寺内和一　川田俊二郎　樋口敏　津倉雄雄　鉄井昌一　藤　玉田史　藤井昌一　藤　田渕本誠祐（矢野）　弥吉博次　治　岩切順一　尾崎弘康　大塚即　大山泰三　奥山勝夫　桐山元治　栗原甲子郎　笹井保　信谷憲之介　谷谷子了一　玉田弘　寺内和一　川田俊二郎　樋口敏　津倉雄雄　鉄井昌一　藤　田渕本誠祐（矢野）　弥吉博次　治　三宅治郎　村上喜美　森本生平　森山哲雄　安本憲徳　山口照雄　山下寿一　横井久司　吉田一郎　米田守　渡辺文三郎　玉熊　常国邦義　南渕信男　宮本昭八　新井裕　児

▽経済学科　石原麦三　遠藤男　小四豊　後藤喜一　橋爲広　板東不一美　平井十二郎　増田清　村上治　鷲尾敏雄（橋本）　湯川広　明　吉田陸文

▽文学科共語専攻科　石井育男　小谷文夫　阪本英明　中川一仁　科内一　三木一郎　水野治　光延光　宮田大八

▽経済学科　田中一夫　田中田雄　朱石清一　橋田秀夫　藤本久二　堀内喜雄

▽小川甲子郎　神田晴　雄　曽木一　竹内義雄　女水駿之助　中島好雄　本田彰　前鴨良造　井上元之助　鐵辰巳　明

▽法律学科　朝倉光持　岩崎勉　江口清　桜本和夫　小国豊　大川八郎　加賀源和　鴨金恒人　川原八郎　小野田義信　長江武夫　藤尾辰男　渡瀬克美

▽商業学科　足立道威　芦田利雄　石浦繁　今村亀市　永戸敏夫　小石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　都島真人　大東町二　大野一　大見玉恵二（昭38学経）　名古屋　市西区東岸町一一五　奈良県　御船町二―三―三　大阪市　石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　桜本和夫　小島洋一（昭42学経）　大阪市　垂水区西垂水町二―三　名古屋　柴崎町一五五　調布市　田谷敏二（昭49学社）　東京都　中野区東中野三―八―一四渡辺ビル二階旭通信社員寮　鹿児島　原栄　鯉田洋　佐々木彰　斎藤清　県大島郡瀬戸内町泊井　鳥越民雄（昭44学一法）　四日市　市伊倉二―一八藤牧方　橿原市上品寺町三九八―七　東京都　中央区八重洲二―三芝同ビル一〇　階日本ビューホテル㈱東京案内所内　中井正五（昭14専二商）　大阪市　住吉区長居東中四八―七―五　小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

▽井上淳子（昭45学一法）　竹田　大阪市東淀川区瑞光通四―三五―二さつきマンションF号　▽奥中陽子（昭45学一英）　大阪市　住吉区長居中四八―七―五　▽小野田幸子（昭45学二法）　大藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　▽北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　▽小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　▽白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　▽高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　▽藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　▽松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

改姓名

【　】内は旧姓名

▽竹田（昭45学一法）　大阪市東淀川区瑞光通四―三五―二さつきマンションF号　▽奥中陽子（昭45学一英）　大阪市　住吉区長居中四八―七―五　▽小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　▽北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　▽小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　▽白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　▽高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　▽藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　▽松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

異動

▽鶴田宋（昭17六一）　門真市東瀬町二―四八五　▽伊藤和男（昭44学一法）　守口市東町二―四八五　▽井上雅夫（昭45学一法）　大阪市東淀川区瑞光通四丁五―二さつきマンションF号　▽今泉大成（他）　京都府丹波郡同日町寺戸東野辺六四一二　▽今泉貞夫（昭9専一法）　河内長野市松ケ丘東町一三三九　▽今北博彦（昭44学工電）　堺市同陵四町一―一六　▽入江宏郎（昭44学二商）　泉佐野市上町九五―一　▽岩崎忠善（昭46学一史）　山形県鶴岡市本町三―八―一四鶴岡ジャスコ寮　▽植田保宏（昭44学一商）　西宮市　▽上野鉛治（昭42学一経）　熊本県八代郡鏡町大字八代四百鶴鉛ジャスコ寮　▽鳴坂信一（昭42学一経）　豊中市　▽岡本敏夫（昭36学二商）　豊中市　▽岡本敏夫（昭42学一新）　出雲市塩冶町高西　▽奥川英樹（昭41学一史）　川西市下加茂一―九一―三　▽奥田勉（昭45学一英）　東大阪市　▽大須賀一（昭45学一法）　東大阪市　▽葛西勉（昭37学二商）　高槻市野田町三八〇―四五　▽加野富一（昭41学一商）　大東市深野三―一―三六　▽川尻武一（昭39学一英）　寝屋川市大字三井四―五―一　▽川村幸雄（昭45学一経）　大阪市西淀川区西島町五〇八　▽木佐貫勉（昭40学一経）　神戸市灘区琵琶町一　▽九里哲司（昭46学一経）　大阪市東住吉区平野野蓋町六七四　▽倉橋康尊（昭41学一法）　藤井寺市国府二―一―一五　▽桑田博文（昭44学一経）　福山市御船町二―三―三　▽小島洋一（昭42学一経）　大阪市都島区大東町二―四―四　▽児玉恵二（昭38学一経）　名古屋市西区東岸町一一五　▽小寺和男（昭25専二法）　奈良県　▽小林明（昭44学二法）　茨木市東奈良二―二―七二

▽小堀欣二（昭10専一商）　東京都杉並区南荻窪二―一〇―一〇　▽坂井千城（昭38学工電）　富田林市須賀町六―三　▽笹井徳男（昭41学一法）　羽曳野市伊賀二―八―一　▽笹川和正（昭45学工機）　八尾市福万寺町南三―二―五松下電器　▽篠田義一　当麻清雄　中辻深　中水雲八郎　伸尾春光　西山大示　大山泰三　奥山勝夫　桐山元治　栗原甲子郎　笹井保　信谷憲之介　谷谷子了一　玉田弘　寺内和一　川田俊二郎　樋口敏　津倉雄雄　鉄井昌一　藤　玉田史　藤井昌一　藤　田渕本誠祐（矢野）　弥吉博次　治　岩切順一　尾崎弘康　大塚即　大山泰三　奥山勝夫　桐山元治　栗原甲子郎　笹井保　信谷憲之介　谷谷子了一　玉田弘　寺内和一　川田俊二郎　樋口敏　津倉雄雄　鉄井昌一　藤　田渕本誠祐（矢野）　弥吉博次　治　三宅治郎　村上喜美　森本生平　森山哲雄　安本憲徳　山口照雄　山下寿一　横井久司　吉田一郎　米田守　渡辺文三郎　玉熊　常国邦義　南渕信男　宮本昭八　新井裕　児

▽経済学科　石原麦三　遠藤男　小四豊　後藤喜一　橋爲広　板東不一美　平井十二郎　増田清　村上治　鷲尾敏雄（橋本）　湯川広　明　吉田陸文

▽文学科共語専攻科　石井育男　小谷文夫　阪本英明　中川一仁　科内一　三木一郎　水野治　光延光　宮田大八

▽経済学科　田中一夫　田中田雄　朱石清一　橋田秀夫　藤本久二　堀内喜雄

▽小川甲子郎　神田晴　雄　曽木一　竹内義雄　女水駿之助　中島好雄　本田彰　前鴨良造　井上元之助　鐵辰巳　明

▽法律学科　朝倉光持　岩崎勉　江口清　桜本和夫　小国豊　大川八郎　加賀源和　鴨金恒人　川原八郎　小野田義信　長江武夫　藤尾辰男　渡瀬克美

▽商業学科　足立道威　芦田利雄　石浦繁　今村亀市　永戸敏夫　小石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　都島真人　大東町二　大野一　大見玉恵二（昭38学経）　名古屋　市西区東岸町一一五　奈良県　御船町二―三―三　大阪市　石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　桜本和夫　小島洋一（昭42学経）　大阪市　垂水区西垂水町二―三　名古屋　柴崎町一五五　調布市　田谷敏二（昭49学社）　東京都　中野区東中野三―八―一四渡辺ビル二階旭通信社員寮　鹿児島　原栄　鯉田洋　佐々木彰　斎藤清　県大島郡瀬戸内町泊井　鳥越民雄（昭44学一法）　四日市　市伊倉二―一八藤牧方　橿原市上品寺町三九八―七　東京都　中央区八重洲二―三芝同ビル一〇　階日本ビューホテル㈱東京案内所内　中井正五（昭14専二商）　大阪市　住吉区長居東中四八―七―五　小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　▽小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　▽白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　▽高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　▽藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　▽松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

▽林恒久（昭11専二商）　川西市南区曽根崎上一―八【喜久屋洋鉄店】　▽桧垣勇康（昭32学二経）　大阪市此花区四貫島大淀一―一二【市立橋小学校】　▽平井英雄（昭35学一商）　豊中市三【三井倉庫港運】　▽平田理登（昭46学工電）　豊中市豊南町南一―七―一三㈱東洋現像所】　▽藤原勝（昭11二商）　大阪市住吉区長居東一―一二【住吉郵便局】　▽福見信夫（昭41学二商）　和歌山市茶屋の丁三真砂荘【住友生命保険㈱和歌山支社】　▽松田政夫（昭11専二法）　名古屋市千種区北千種町竜月一三二千種住宅WE一号【中部公安調査局】　▽林井義和（昭34学一法）　御所市七二一―七【司法書士・土地・家屋調査士・行政書士開業】

▽小堀欣二（昭10専一商）　東京都杉並区南荻窪二―一〇―一〇　▽坂井千城（昭38学工電）　富田林市須賀町六―三　▽笹井徳男（昭41学一法）　羽曳野市伊賀二―八―一　▽笹川和正（昭45学工機）　八尾市福万寺町南三―二―五松下電器　▽篠田義一　当麻清雄　中辻深　中水雲八郎　伸尾春光　西山大示　大山泰三　奥山勝夫　桐山元治　栗原甲子郎　笹井保　信谷憲之介　谷谷子了一　玉田弘　寺内和一　川田俊二郎　樋口敏　津倉雄雄　鉄井昌一　藤　玉田史　藤井昌一　藤　田渕本誠祐（矢野）　弥吉博次　治　三宅治郎　村上喜美　森本生平　森山哲雄　安本憲徳　山口照雄　山下寿一　横井久司　吉田一郎　米田守　渡辺文三郎　玉熊　常国邦義　南渕信男　宮本昭八　新井裕　児

▽経済学科　石原麦三　遠藤男　小四豊　後藤喜一　橋爲広　板東不一美　平井十二郎　増田清　村上治　鷲尾敏雄（橋本）　湯川広　明　吉田陸文

▽文学科共語専攻科　石井育男　小谷文夫　阪本英明　中川一仁　科内一　三木一郎　水野治　光延光　宮田大八

▽経済学科　田中一夫　田中田雄　朱石清一　橋田秀夫　藤本久二　堀内喜雄

▽小川甲子郎　神田晴　雄　曽木一　竹内義雄　女水駿之助　中島好雄　本田彰　前鴨良造　井上元之助　鐵辰巳　明

▽法律学科　朝倉光持　岩崎勉　江口清　桜本和夫　小国豊　大川八郎　加賀源和　鴨金恒人　川原八郎　小野田義信　長江武夫　藤尾辰男　渡瀬克美

▽商業学科　足立道威　芦田利雄　石浦繁　今村亀市　永戸敏夫　小石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　都島真人　大東町二　大野一　大見玉恵二（昭38学経）　名古屋　市西区東岸町一一五　奈良県　御船町二―三―三　大阪市　石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　桜本和夫　小島洋一（昭42学経）　大阪市　垂水区西垂水町二―三　名古屋　柴崎町一五五　調布市　田谷敏二（昭49学社）　東京都　中野区東中野三―八―一四渡辺ビル二階旭通信社員寮　鹿児島　原栄　鯉田洋　佐々木彰　斎藤清　県大島郡瀬戸内町泊井　鳥越民雄（昭44学一法）　四日市　市伊倉二―一八藤牧方　橿原市上品寺町三九八―七　東京都　中央区八重洲二―三芝同ビル一〇　階日本ビューホテル㈱東京案内所内　中井正五（昭14専二商）　大阪市　住吉区長居東中四八―七―五　小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　▽小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　▽白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　▽高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　▽藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　▽松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

▽松本靖（昭40学一商）　大阪市北区曽根崎上一―八【喜久屋洋鉄店】　▽内海敏明（昭14専二法・昭34学二商）　神戸市灘区泉通五―五―三【西税務署法人税課】　▽山田征一（昭37学一法）　吹田市津雲台三―一―A五―三〇八【住友銀行迫堀堀支店】　▽渡辺勝彦（昭42学一法）　米国サンフランシスコ市ノースアメリカ　ン、ニチロワ社内【日本精興㈱ニチロワエ大㈱】

移転

▽伊賀定盛（昭19大法）　豊岡市三坂町　▽池田康雄（昭39学一商）　姫路市北条市住吉六　▽五月坂正孝（昭41学一法）　河内長野市喜多町　▽石原治司（昭38学工金）　大津市　▽石山寺辺町公園石山団地一―一〇　▽鍬山知男（昭39学一商）　茨木市春日三―一―一　▽板野宏二（昭44学一経）　山口市吉敷四一六七―二北沢産業山口営業所内　▽蒲田保雄（昭42学一商）　高槻市　▽上野鉛治（昭42学一経）　熊本県八代郡鏡町大字八代四百鶴鉛ジャスコ寮　▽植田保宏（昭44学一商）　西宮市　▽鳴坂信一（昭42学一経）　豊中市　▽岡本敏夫（昭36学二商）　豊中市　▽岡本敏夫（昭42学一新）　出雲市塩冶町高西　▽奥川英樹（昭41学一史）　川西市下加茂一―九一―三　▽奥田勉（昭45学一英）　東大阪市　▽大須賀一（昭45学一法）　東大阪市　▽葛西勉（昭37学二商）　高槻市野田町三八〇―四五　▽加野富一（昭41学一商）　大東市深野三―一―三六　▽川尻武一（昭39学一英）　寝屋川市大字三井四―五―一　▽川村幸雄（昭45学一経）　大阪市西淀川区西島町五〇八　▽木佐貫勉（昭40学一経）　神戸市灘区琵琶町一　▽九里哲司（昭46学一経）　大阪市東住吉区平野野蓋町六七四　▽倉橋康尊（昭41学一法）　藤井寺市国府二―一―一五　▽桑田博文（昭44学一経）　福山市御船町二―三―三　▽小島洋一（昭42学一経）　大阪市都島区大東町二―四―四　▽児玉恵二（昭38学一経）　名古屋市西区東岸町一一五　▽小寺和男（昭25専二法）　奈良県　▽小林明（昭44学二法）　茨木市東奈良二―二―七二

▽篠田義一　当麻清雄　中辻深　中水雲八郎　伸尾春光　西山大示　大山泰三　奥山勝夫　桐山元治　栗原甲子郎　笹井保　信谷憲之介　谷谷子了一　玉田弘　寺内和一　川田俊二郎　樋口敏　津倉雄雄　鉄井昌一　藤　玉田史　藤井昌一　藤　田渕本誠祐（矢野）　弥吉博次　治　三宅治郎　村上喜美　森本生平　森山哲雄　安本憲徳　山口照雄　山下寿一　横井久司　吉田一郎　米田守　渡辺文三郎　玉熊　常国邦義　南渕信男　宮本昭八　新井裕　児

▽経済学科　石原麦三　遠藤男　小四豊　後藤喜一　橋爲広　板東不一美　平井十二郎　増田清　村上治　鷲尾敏雄（橋本）　湯川広　明　吉田陸文

▽文学科共語専攻科　石井育男　小谷文夫　阪本英明　中川一仁　科内一　三木一郎　水野治　光延光　宮田大八

▽経済学科　田中一夫　田中田雄　朱石清一　橋田秀夫　藤本久二　堀内喜雄

▽小川甲子郎　神田晴　雄　曽木一　竹内義雄　女水駿之助　中島好雄　本田彰　前鴨良造　井上元之助　鐵辰巳　明

▽法律学科　朝倉光持　岩崎勉　江口清　桜本和夫　小国豊　大川八郎　加賀源和　鴨金恒人　川原八郎　小野田義信　長江武夫　藤尾辰男　渡瀬克美

▽商業学科　足立道威　芦田利雄　石浦繁　今村亀市　永戸敏夫　小石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　都島真人　大東町二　大野一　大見玉恵二（昭38学経）　名古屋　市西区東岸町一一五　奈良県　御船町二―三―三　大阪市　石昌俊　大瀬正巳　大野知一　大川　桜本和夫　小島洋一（昭42学経）　大阪市　垂水区西垂水町二―三　名古屋　柴崎町一五五　調布市　田谷敏二（昭49学社）　東京都　中野区東中野三―八―一四渡辺ビル二階旭通信社員寮　鹿児島　原栄　鯉田洋　佐々木彰　斎藤清　県大島郡瀬戸内町泊井　鳥越民雄（昭44学一法）　四日市　市伊倉二―一八藤牧方　橿原市上品寺町三九八―七　東京都　中央区八重洲二―三芝同ビル一〇　階日本ビューホテル㈱東京案内所内　中井正五（昭14専二商）　大阪市　住吉区長居東中四八―七―五　小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　▽小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　▽白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　▽高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　▽藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　▽松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

▽井上淳子（昭45学一法）　竹田　大阪市東淀川区瑞光通四―三五―二さつきマンションF号　▽奥中陽子（昭45学一英）　大阪市　住吉区長居中四八―七―五　▽小野田幸子（昭45学二法）　大阪市　藤　橿原市見瀬町一七五―二在　宅公団B六―三〇一　▽北森成次（昭42学一商）　青木　東大阪市中小阪六〇九八大日本工木㈱大阪支店▽　▽小宮長木子（昭44学一新）　揚田　茨木市舟木町一六―一六八近畿不動産経営協会▽　▽白木武（昭42学一商）　岐阜市栗野長瀬一九六六―五　▽高雄瑞長（昭44学一英）　柳谷　富山市町村三九　▽藤田公子（昭40学一法）　京都市左京区吉田神楽岡町三―六四　▽松原利一（昭44学工化）　阜尾　羽曳野市西浦一九七二―二㈱寺岡製作所▽

関西大学を築いた人々

続

—⑤—

題字は樫本信雄校友会長

清廉、剛直の政治家

九州財界から一躍蔵相に

北村徳太郎

—<1>—

文学部教授　横田健一

昭和二十二年十二月、北村徳太郎が片山内閣の逓輸大臣に任ぜられたとき、日本国民の多くは、北村がどんな人か知らなかった。ほとんどなんの政治的閥歴もない人が、この枢要な地位についたのである。しかも、さらに重要な大蔵大臣というポストに、翌二十三年三月に就任――芦田内閣のそれであるが――したことは、さらに人びとを驚かしたのである。

一部の財界人は、彼が、北九州財界の信望であり、多くの会社経営に卓越した手腕を発揮していたことを知っていた。しかし、東京や大阪の財界の指導者が、政界の中枢にあがることは、きまぎまあっても、九州財界の実業家が、敗戦後の二十一年四月、衆議院議員に当選するなり、一躍大蔵政務次官に任ぜられ、ひきつづいて、トントン拍子に、運輸大臣、大蔵大臣に任ぜられたのであるから、日本国民の眼をみはらせたのも当然である。

学閥もなく、官僚としての経歴もなく、まだ中央財界のバックもなく、旧二大政党のバックもない、しかも教養の曖かな人であり、生活をしながら、高谷閣笠に師事して漢学をまなび、その傍ら図書館に通って、本をむさぼり読んだ。

終生、読書は彼の第一番の趣味であった。そのころ図書室で、菅沼貞風の『大日本商業史』をよんだ。これは貞風が二十三才のとき、明治二十四年東大に卒業論文として提出したもので、不朽の名著といわれ、後年（昭和十七年）北村は岩波書店からこの書を復刻再刊していることをみても、如何に強い感銘をうけたかわかるが、とくに、彼はその巻頭に福本日南がしるした『菅沼貞風君伝』に大きな感動をおぼえたという。文語体の日南の文章にせよ貞風の本文にせよ漢籍やくわしい歴史についての予備知識がなければ理解できない程度のもので、現在の中学生、高校生には、なかなか歯がたつしろものではない。

また十七才のとき、トルストイ著加藤直士訳『我が宗教』『我が懺悔』および内田魯庵訳『復活』その他を読みふけって、大きな影響をうけた。後年、日ソ貿易の交渉のためソ連に赴いたとき、二度もトルストイの故郷ヤスヤナ・ポリヤーナを訪れているのは、少年時代の感銘がどんなに大きかったかを物語っている。

明治四十年、二十一才のときに大阪の北浜銀行に入社した。関西大学法律学科に入学したのも、この年のことであろう。北浜銀行の岩下頭取は当時大阪財界の巨頭の一人で、三十有余の会社の社長、重役としてオ腕を発揮していた豪傑であった。

彼はこの句に感じ、荘厳な景色を愛し結婚、天下茶屋に新居を構えた。二十五才であった。夫人の死別の発展とともに、汽船の軍艦を国産しようという機運がもりあがりを地に造船会社の新設と拡張がおこなわれ、まだ汽船会社も多くて務整理に没頭し、それをりっぱにすませた。

富士山で洗礼決意

北村は関大在学時代、すなわち北浜銀行に入社してまもなく、銀行の先輩で熱心なキリスト教徒である前述の山本節次郎の懇切なみ涉のためソ連に赴いたとき、二度もトルストイの故郷ヤスヤナ・ポリヤーナを訪れているのは、少年時代の感銘がどんなに大きかったかを物語っている。

その受洗の日時については二説あり、鈴木伝助著『一書の人、北村徳太郎』には明治四十二年九月十一日とし、西海タイムス昭和四十三年十一月三十日号の年譜によれば、大正元年九月十九日受洗となっている。どちらが正しいかわからないが、どうも後者の方ではないかと思われる。

受洗の機縁となった回心